

# スタディガイド

## (学習指導書)

### 〈英語 2〉

#### *Mystery Tour with Sherlock Holmes*

(『シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅』)

関口 奈津恵

法政大学通信教育部

## はじめに

このたび「英語 2」の指定教科書を変更するにあたり、スタディガイドを新たに編集しました。

本講座「英語 2」は基礎的な英語を身につけた学習者の次のステップになるよう設けられた講座です。今回も、学習者のみなさんの知的好奇心に応えられるような読み物を提供するという方針のもと、教科書選定を行いました。そして選んだのが、*Mystery Tour with Sherlock Holmes* です。

アーサー・コナン・ドイル (Arthur Conan Doyle, 1859-1930) の創り出したあまりにも有名な名探偵シャーロック・ホームズ (Sherlock Holmes) については、みなさんもその名前をご存じでしょう。あるいは翻訳を読んだことがあるかもしれません。しかし、100 年以上前に書かれた原作を読んだ方は、そう多くないのではないのでしょうか。

教科書は原作を読みやすく書き直した The Heinle Reading Library の Illustrated Classics Collection 版をもとに編集されています。文章には原作の味わいが存分に生かされ、みなさんに楽しんでいただけたと思います。しかし、読みやすいとはいえ、正確に読み進めることなしになぞ解きはできません。1 つのストーリーを読み終えるころには、新しい語彙が増え、文法の知識がしっかりと身についていることでしょう。

最後になりますが、スタディガイドを作成するにあたりお世話になりました方々に心より感謝申し上げます。セングージラーニング株式会社様には通信課程で教科書を使用することをご快諾いただきました。通信教育部の堀内様と梅田様にはさまざまな事務手続きをお世話いただきました。そして原稿を読んでもくださった宇治谷義英先生と中和彩子先生には、解説における文法の内容や表現について大変有意義なコメントとご提案をいただきました。そして今回もイラストを考えてくれた我妻広明さん、どうもありがとうございます。

2021 年 11 月

著者



# 目 次

はじめに	i
目 次	iii
指定教材 <i>Mystery Tour with Sherlock Holmes</i> の訂正について	iv
スタディガイドについて	v
教科書の構成	vi
学習に必要なもの	vi
これだけは知っておきたい英文法（基礎編・発展編）	vii
Introduction	1
Unit 1 “An Easy Job”	2
Unit 2 “Mr. Wilson Is Put to a Test”	5
Unit 3 “A Job Suddenly Ends”	8
Unit 4 “Holmes Gather Information”	11
Unit 5 “Setting the Trap”	14
Unit 6 “Holmes Explains the Plan”	17
Unit 7 “A Job with Strange Requirements”	20
Unit 8 “The Work Begins”	23
Unit 9 “A Strange Observer”	26
Unit 10 “Miss Hunter Looks Around”	29
Unit 11 “Mr. Holmes Has an Idea”	32
Unit 12 “Mr. Rucastle’s Terrible Fate”	35
参考文献	38
解 答 集	39

## 指定教材 *Mystery Tour with Sherlock Holmes* の訂正について

[p = page, l = line]

誤	正
Unit 1, p. 8, ll. 9-10. , The Red-Headed League was formed.	, the Red-Headed League was formed.
Unit 2, p. 18, l. 7. satisfactory red	satisfactorily red
Unit 4, p. 31, l. 6. What stupid am I?	How stupid am I?
Unit 11, p. 70, l. 6. look onto	look into

## スタディガイドについて

このスタディガイドは法政大学通信教育部教養科目「英語 2」を履修するにあたり、指定市販教科書 *Mystery Tour with Sherlock Holmes* を学習する際の手助けとなるよう作成されたもので、いわば通学課程での教員による講義に相当します。この科目を履修されるみなさんは、本ガイドを参照しつつ、学習を進めてください。

法政大学通信教育部

本スタディガイドには、各ユニットのセクションごとに、英文読解の手助けとなるような解説を掲載しました。単語を調べるだけでなく、文の構造を理解したうえで、内容をしっかりと読み解く楽しさをぜひ味わってください。解説部分において、各行の初めに書かれた数字は教科書の行数を表し、「 」内は日本語訳です。

巻末に練習問題の一部の解答を掲載しました。まずはご自分の力で答えを出し、その後、確認のために参照してください。

## 教科書の構成

教科書 *Mystery Tour with Sherlock Holmes* は 12 のユニットから成り、Unit 1-Unit 6 で “The Red-Headed League” を、Unit 7-Unit 12 で “The Adventure of the Copper Beeches” を読みます。

各ユニットには以下のセクションがあります。

- ① 文章を読み、練習問題で内容を確認する。
- ② 続きを読み、練習問題で内容を確認する。
- ③ 音声を聴き、質問に答える。→ **Listening Script** で内容を確認。

**Preparation for the next story!** そのユニットで読み進めた範囲の内容を要約し、次のユニットに備える。

## 学習に必要なもの

### 【辞書】

辞書には単語のスペル、発音記号、品詞、活用、文例など、さまざまな情報が掲載されており、外国語学習における頼りになる相棒です。紙の辞書、電子辞書、どちらでもかまいません。使い慣れるほどに学習が楽しくなるはずです。なお、ネット上で使える無料の辞書類は、簡易的に使うには便利ですが、本格的な学習をするにはやはり正式な辞書を用意しましょう。

### 【文法の参考書】

教科書やスタディガイドだけでは分からないことが出てきたとき、文法の参考書を 1 冊持っていると心強いでしょう。例えば「関係代名詞」など、知りたい項目だけを必要に応じて調べることもできますし、もっと広く文法を復習したいときにも使えます。

## これだけは知っておきたい英文法・基礎編

### 【文の構成と基本文型】

文は大きく2つの部分から成り立っています。「～は」という文の主題を表す主部 (subject) と、それについて「～する, ～である」と述べる述部 (predicate) です。

<u>We</u>	<u>love reading books.</u>
主部	述部

主部の中心となる語を「主語 (subject)」, 述部の中心を「述語動詞 (または動詞) (predicate verb / verb)」, 動詞の動作を受ける語を「目的語 (object)」, 主語と述語動詞や目的語だけでは述部の意味が不完全な場合に補われる語を「補語 (complement)」と呼びます。以下の基本的な5つの文型です。

- |  |                                 |              |
|--|---------------------------------|--------------|
| 1. S + V                                   | <u>She smiled.</u>              | 「彼女は微笑んだ」    |
| 2. S + V + C                               | <u>We are fine.</u>             | 「私たちは元気です」   |
| 3. S + V + O                               | <u>You play tennis.</u>         | 「あなたはテニスをする」 |
| 4. S + V + O <sub>1</sub> + O <sub>2</sub> | <u>She asked me a question.</u> | 「彼女は私に質問をした」 |
| 5. S + V + O + C                           | <u>They made me happy.</u>      | 「彼らは私を幸せにした」 |

S = subject (主語), V = verb, predicate verb (動詞, 述語動詞),  
C = complement (補語), O = object (目的語)



## 【品詞について】

単語を機能や意味などによって類別したものを品詞 (part of speech) と呼びます。以下に基本的な 8 つの品詞を挙げます。カッコ内は英語名と略号です。

### 1. 名詞 (noun/ n.)

物や事物の名前を表す語で、可算名詞 (数えられる名詞, countable) と不可算名詞 (数えられない名詞, uncountable) がある。略号はそれぞれ、CとU。

My name is Sherlock Holmes. I am a detective.

### 2. 代名詞 (pronoun/ pron.)

名詞の代わりに用いられる語で、格による語形の変化がある。

He seemed well suited for it.

### 3. 動詞 (verb/ v.)

動作や状態を表す語で、主語の人称や時制による語形変化がある。

Duncan told Wilson about the duties.

He was the owner of a shop in London.

### 4. 形容詞 (adjective/ adj.)

名詞や代名詞を修飾する語で、補語にもなる。

I have a long and thick hair.

Don't say my hair is yellow.

### 5. 副詞 (adverb/ adv.)

動詞、形容詞、副詞、文の一部または全体を修飾する。

His eyes were shining brightly.

Suddenly, her mother knelt on the floor.

## 6. 前置詞 (preposition/ prep.)

名詞、代名詞、名詞相当語句の前に置かれ、句を作る語。

He whispered something to her at breakfast.

Toller is a man with a constant smell of liquor on him.

## 7. 接続詞 (conjunction/ conj.)

語、句、節を結びつける語。

I was introduced to Mrs. Rucastle and the child, Edward.

My bag was not blue but white.

He believed that a serious crime was being planned.

## 8. 間投詞 (interjection/ int.)

文中に投入され、驚き、喜び、悲しみなどを表す語。

“Oh, please stop it,” she said.

# 英文法・発展編

## 【話法について】

話法とは、発話者の言葉を伝える方法のことで、基本的に直接話法と間接話法があります。

### 直接話法

発話者の言葉を忠実に再現する話法で、その言葉（被伝達部）が引用符（quotation mark）で囲まれている。

The landlord said to Wilson, “It is 17 King Edward Street.”

発言者 伝達動詞

被伝達部

Jane said to me, “Are you happy?”

発言者 伝達動詞

被伝達部

## 間接話法

発話者の言葉を、引用符を使わずに、伝える人の言葉で再現する方法。主節の動詞に合わせて被伝達部（従節）の動詞が過去形になる。（時制の一致）

The landlord told Wilson (that) it was 17 King Edward Street.

発言者 伝達動詞

被伝達部

Jane asked me if I was happy.

発言者 伝達動詞

被伝達部

## 【分詞について】

分詞は動詞と形容詞の性質を合わせ持ち、現在分詞と過去分詞があります。

**現在分詞** 動詞の原形に -ing をつける。

**過去分詞** 規則変化動詞の場合、動詞の原形に -ed をつける。不規則変化動詞の変化表は辞書や参考書に載っており、まとめて覚えてしまうとよい。辞書で1語ずつ調べることもできる。

原形	過去形	過去分詞	現在分詞
open	opened	opened	opening
study	studied	studied	studying
break	broke	broken	breaking
go	went	gone	going

## 【分詞の用法】

**進行形** be + 現在分詞 He is **listening** to music.

**完了形** have + 過去分詞 I have **lived** in Fukuoka for ten years.

**受動態** be + 過去分詞 Cheese is **made** from milk.

**形容詞的用法** 名詞を修飾する

She was watching the burning fire.

「燃えている火」

What is the language spoken in Japan?

「話されている言語」

### 【分詞構文】

分詞の導く句が主節を修飾しているとき、これを分詞構文と呼びます。主節との関係において分詞構文は付帯状況、時、理由、譲歩、条件、動作の継続などを表現しますが、いずれの意味合いも接続詞で節と節を結ぶ場合よりは曖昧になり、文に流れるようなりズムが生まれます。

Smashing the picture, he reached over for the kerosene.

S      V

「絵を粉々に壊すと、彼は灯油に手を伸ばした」

現在分詞 smashing の意味上の主語は主節の主語と同じ he で、省略されている。

Shocked by the request, she stared at her mother's face.

「その懇願にショックを受けて、彼女は母の顔を見つめた」

他動詞の過去分詞の場合は受動的な意味になる。(shocked の前に being や having been が省略されていると考えられる)

### 【独立分詞構文】

分詞の主語が主節の主語と違うとき、分詞の前に意味上の主語を添えます。

Holmes stopped in front of the building, his eyes shining brightly.

S      V

S<sub>2</sub>      V<sub>2</sub>

「ホームズはその建物の前で立ち止まった。目を明るく輝かせながら」

現在分詞 shining の意味上の主語は his eyes で省略されない。

### 【関係詞】

関係詞は、先行する名詞を修飾したり説明を加えたりする語で、関係代名詞と関係副詞があります。

## 関係代名詞

I met a boy who can speak seven languages.

「私は7か国語を話せる少年と出会った」

関係代名詞の導く節が修飾する語を先行詞という。上の文では、関係詞 **who** の導く節が、先行詞 **boy** を説明している。

**what** は先行詞を含む関係代名詞で、「～なこと」「～なもの」などの意味を表す。

**what** happened to the girl      「彼女に起きたこと」

先行詞	主格（～は）	所有格（～の）	目的格（～を, ～に）
人	who	whose	whom
物・動物	which	whose/ of which	which

\*that は人, 物どちらにも使える。

\*whom は口語では who で代用されることが多い。

## 関係副詞    when, where, why, how

This is the café where we met.

「ここが私たちの出会ったカフェです」

## 制限用法と非制限用法

制限用法とは関係詞節が先行詞の意味を明確にする（限定修飾する）用法。

I have a friend who lives in London.

「私にはロンドンに住んでいる友人がいる」

非制限用法とは先行詞に補足的な説明などを加える用法で、関係詞の前にカンマをつける。

My friend Jane, who lives in London, is an architect.

「友人のジェーンはロンドンに住んでいますが、建築家です」

# Introduction

## p. 6

- 1 **are going to read** **be going to** はごく近い未来を表す。「これから読むところだ」
- 2 **were ... written** be+ 過去分詞で受動態。「書かれた」
- 3 **a detective called ...** 「～と呼ばれる探偵」過去分詞 **called** 以降が直前の名詞を修飾している。
- 7 **things that have been lost** **that** は関係代名詞で、**that** 以降の内容が先行詞 **things** を説明している。

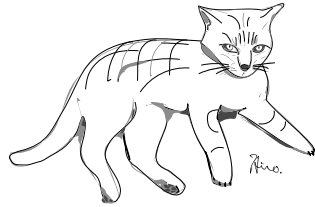
## 空所穴埋め

音声を聴いて単語を書きとり、スペルや意味の分からない単語は辞書で確認しましょう。(スタディガイド巻末に解答あり)

- 1 **I'm** I am の短縮形。
- 3 **come and ask me** 動詞の原形で始まるのは命令文。
- 3 **I have solved and ... caught** have+ 過去分詞で現在完了。have solved と have caught で、2つ目の have は省略されている。現在完了でこれまでにしてきたことを表している。
- 5 **I'll** I will の短縮形。
- 10 **above all** 「なによりも」

## Unit 1 An Easy Job

Let's go on to today's story!



**1**

p. 8

- 1 **"I want you to ...,"** said Holmes. “ ” この記号は引用符 (quotation marks) と呼ばれ、発言の引用などに用いられる。この文では Holmes のセリフが引用符で囲まれている。日本語に訳すときは 「 」 のようにカギ括弧で囲む。
- 1 **I want you to listen to** want O to do で、「O に～してもらいたい」
- 2 **I'm sure (that) you'll agree that I've never had a case like this before.**  
that 節が2つ重なっており、それぞれをしっかり把握することが大切。1つ目は、I am sure (that) ... before. 「私は that 以下のことを確信している」 2つ目は、you'll agree that ... before. 「君は that 以下のことに同意してくれるだろう」 両方とも、that 節が目的語に相当する。
- 4 **the ad that began it all** that は関係代名詞で、関係代名詞の導く節が the ad を説明している。
- 8 **red-headed** 「赤い髪の毛をした、赤毛の」
- 10 **was formed** be+ 過去分詞で受動態。「結成された」
- 10 **room for** 「～のための空き、余地」
- 11 **4 pounds a week** 「週4ポンド」 a = per 「～につき」
- 12 **All ... men who are ... and above the age of 21** who は関係代名詞で、関係代名詞に導かれる節が men を修飾している。All ... 21 まだが主部。
- 13 **Apply** 動詞の原形で始まるのは命令文。この後に、どのように、いつ、誰に、どこに申し込めばよいのかが説明されている。

### EXERCISE

p. 9

メンバー募集の広告をよく読み、要点を日本語でまとめましょう。

### 1. Can a 17-year-old boy with red hair apply for membership?

- ・下線部が主部。Can S apply for membership? 「S はメンバーに応募できますか？」 質問 2 と 3 も同じ形式です。どこまでが主部なのか、下線を引くなどして確認しましょう。
- ・can や should は助動詞で、「～できる」「～すべきである」のように、それぞれに意味があります。
- ・答え方は、Can で始まる疑問文の質問には Yes, he can. または No, he can't. と答え、Should で始まる疑問文の質問には Yes, he should. または No, he shouldn't. と答えます。主部に書かれている人物が、赤毛連盟の募集条件に合っているかどうかを判断して答えましょう。

### 2. ... who wants more than 10 pounds a month

- ・「毎月 10 ポンドより多い金額をほしい人」 4 pounds a week = ( ) pounds a month

## 2

### p. 10

- 1 **Since ..., my life has been strangely changed.** since ... : ～以来。主語は my life で、has been changed は受動態の現在完了形。「私の人生は奇妙に変わってしまった」
- 4 **used to** 「かつて～していた」
- 5 **as** 「～なので」
- 5 **It would have been hard enough to pay him** it は仮の主語で、to pay him を指す。would have been は仮定法過去完了の条件節が省略されたものと考えられ、過去の事実とは反対の想定を表す。「～ただだろう」
- 7 **at half pay** 「半分の給料で」
- 7 **in order to ...** 「～するために」
- 9 **I couldn't ask for a smarter assistant.** 仮定法で比較級の否定。「彼よりも賢い店員は望めないだろう」、つまり「私が雇うことのできる店員としては、彼がもっとも賢いだろう」
- 15 **I wish I was ...** 仮定法過去で、現在実現できないような願望を表す。「～であればなあ」



## EXERCISE

p. 11

T=True, F=False です。1問ずつ内容を把握し、本文中の該当する箇所と比べてください。内容が違う場合は、どこが違うか書いておきましょう。(ガイド巻末に解答あり)

**3**

p. 11

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 13

次にスクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 “ ‘... 引用文の中に引用符が使われている。外側が double quotation mark で、内側が single quotation mark となっている。8 行目までの部分は、全体としては Wilson が Holmes たちに語っている内容であり、その中で Wilson と Spaulding のやりとりが再現されている。
- 2 **Haven't you ever heard of ...?** 現在完了で、否定の疑問文。「～のことを聞いたことがないのですか？」

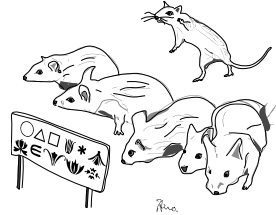
## Preparation for the next story!

p. 12

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたもので、原文そのままではありません。ここでは空欄に単語を入れると要約が完成するようになっています。原文と要約文を比較することで、言い換え表現の勉強にもなるでしょう。

## Unit 2 Mr. Wilson Is Put to a Test

Let's go on to today's story!



1

p. 14

- 1 “ ‘ 引用文の中に引用符が使われていることに注目。全体としては Wilson が Holmes たちに話している内容であり、その中で Wilson と Spaulding のやりとりが再現されている。
- 1 **what I know** what は先行詞を含む関係代名詞で、「～なこと」などと訳せる。「私の知っていること」
- 2 **was founded** be + 過去分詞で受動態。found-founded-founded
- 5 **was left** これも受動態。「託された、残された」leave-left-left
- 6 **instructions to use the interest to help all red-headed men** to 不定詞が2つある。to use は instructions の説明で、「～を使うようにという(指示)」、to help は use the interest の目的を表す副詞用法で、「～を助けるために(使う)」という意味。
- 7 **there must be** must は助動詞で、本動詞に意味を添える。there is は「～がある」という意味で、そこに「～に違いない」という意味が添えられる。
- 10 **has restricted O only to ...** 「O を～のみに限定している」
- 11 **those with ...** those (who are) with ... 「～を持っている人々」
- 12 **are rejected** 主語は those で受動態。これに続く、only those ... are accepted. も同じ文型。「～は受け入れられない」
- 14 **unless ...** 「～でない限り」
- 14 **aren't that important** この that は very の意味。not がついて、「それほど～ではない」という意味。
- 17 **red and rich enough to** 「～するのに十分に赤くて豊かな色」
- 19 **I had Spaulding close up ... and come** この had (have) は使役動詞で、～に～させる、という意味。
- 19 **since ...** 接続詞で、ここでは理由を表す節を導いている。

## EXERCISE

### p. 15

赤毛連盟に入るための条件 (p. 14, ll. 10~13) とそれぞれの言い分を比較して判断し、根拠となる箇所の下線を引くとよいでしょう。(ガイド巻末に解答あり)

Bob

- ・ as 「～なので」
- ・ be going to (do) 近い将来や主語の意図を表す

Peter

- ・ might feel as if ... 「まるで～かのように感じるだろう」
- ・ I've never been 「～したことがない」

## 2

### p. 16

- 6 **you will forgive me for what I am about to do** forgive + 人 + for ...  
「～について人を許す」 be about to do は、be going to よりも接近した未来を表す。「私がしようとしていること」
- 7 **I must make certain** 助動詞 must のここでの意味は、「～しなければならない」 make certain 「確認する」
- 10 **for ...** for は理由を表す節を導く。since, because, as など、理由を表す接続詞には色々ある。
- 10 **we have been deceived** 現在完了 + 受動態。「これまでに～された」
- 12 **shouted ... that ...** that 節の内容が、shouted の目的語に相当する。  
「～と大声で言った」

## EXERCISE

### p. 17

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

**3**

**p. 17**

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## **Listening Script**

**p. 19**

次にスクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 **‘But I already ...,’ I told him.** 引用文中の引用符に注意。
- 3 **look after** 「めんどろをみる」

## **Preparation for the next story!**

**p. 18**

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

## Unit 3 A Job Suddenly Ends

Let's go on to today's story!



### 1

p. 20

- 2 **to see that ...** この to 不定詞は目的を表す。that 節は see の目的語に相当する。「～ということを確認するために」
- 2 **'A' volume** (ブリタニカ百科事典の)「A」の巻。a で始まる項目の載っている巻のこと。
- 5 **complimented me on ...** 「～のことで私をほめた」
- 5 **the number of pages (which) I had written** 「私が書いたページの数」
- 10 **that Ross stopped less and less as I worked, until ...** that 節が、主語「唯一違ったのは」の内容を表す。less and less 「ますます (頻度が) 少なく」 as ... 「～につれて」 until ... は前から訳すことができる。「そしてとうとう～した」
- 14 **was nearly ready for the 'B' volume when ...** when の節を後ろから訳すと「～のとき、私はほとんど『B』の巻を始める準備ができていた」となるが、前から訳すこともできる。「ほとんど準備ができていたが、その時～」
- 20 **is dissolved** 受動態。

### EXERCISE

p. 21

1. **Why did Mr. Ross sometimes drop in ...?** 「Ross 氏が～に時々立ち寄ったのはなぜか？」本文から理由を探そう。
2. **Was Mr. Ross pleased with ...?** be pleased with ... 「～を喜ぶ」 答え方は、Yes, he was. または No, he wasn't.
3. **How much money ...?** 「いくらのお金を～？」was given は受動態。
4. **How many weeks ...?** 「何週間～？」答えるときは、期間を表す前置詞 for が必要。
5. 一般動詞の疑問文なので、答え方は Yes, he did. または No, he didn't.

## 2

### p. 22

- 1 **I was shocked** 「私はショックを受けた」 形式としては be+ 過去分詞の受動態で、他動詞 **shock** (ショックを与える) の過去分詞が形容詞の働きをしている。心理的な影響を与える他動詞にはこの形をとるものがある。  
surprise (驚かせる) → I was surprised. 「私は驚いた」  
excite (興奮させる) → I was excited. 「私は興奮した」  
interest (興味をいだかせる) → I was interested. 「私は興味をもった」
- 1 **what to do** 「何をすべきか」
- 2 **no one knew anything** no one は「誰も～ない」
- 3 **he had never heard of** had+ 過去分詞で過去完了。過去のある時点より前のことを表す。Wilson が家主に質問したことが過去形で書かれていて、その時点で家主は「そのような名前は聞いたことがない」と言った。

## EXERCISE

### p. 23

1. p. 22 本文 5-9 行を読み、Wilson が家主から聞いて知った内容を書きましょう。
2. p. 22 本文 10-12 行を読み、Wilson が教わった場所に行って知ったことを書きましょう。

## 3

### p. 23

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

### p. 25

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。  
(ガイド巻末に解答あり)

- 2 **at the time of the ad** 「あの広告の時点で」

8 **what does ... look like?** 「どのような見た目か？」

## Preparation for the next story!

p. 24

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

5 **came to an end** =ended; finished

7 **found ... nailed** 「～が釘で打ち付けられているのを見つけた」

10 **another man named ...** named は過去分詞で、man を修飾している。  
「～という名前の別の男」

## Unit 4 Holmes Gathers Information

Let's go on to today's story!



**1**

p. 26

- 1 **on foot** 「徒歩で」
- 2 **Coburg Square, where** カンマ + 関係代名詞は非制限用法で、先行詞に説明を加えている。「徒歩で Coburg Square まで行った。そこで Jabez Wilson が商売をしていたのだ」
- 5 **in white letters** 「白い文字で」
- 7 **..., his eyes shining brightly.** 独立分詞構文といい、分詞の意味上の主語を省略せずに表記したもの。分詞構文では、分詞の導く句が付帯状況などを表し、分詞の意味上の主語は省略されるが、この文の主語は Holmes で、shining の意味上の主語は his eyes なので省略しない。目が輝いた状態で→「目を輝かせて」
- 8 **looking intently ...** 分詞構文。この文の主語は he で、looking の意味上の主語も he なので省略されている。「～しながら」
- 16 **Third right, then fourth left,** 駅までの道順をたずねた答えで、「3 つ目の角を右に、それから 4 つ目の角を左に」

### EXERCISE

p. 27

本文 3-17 行をよく読み、要点を書き出しましょう。

**2**

p. 28

- 4 **just to see** to 不定詞が目的を表す。「ただ～を見るために」
- 4 **what he looked like** 「彼がどのような見た目か」
- 7 **what I expected to see** 先行詞を含む関係代名詞の what は、「～なもの、～なこと」と訳せる。「私が見るだろうと予期していたもの」
- 18 **that does it.** 「これで終わりだ」



## EXERCISE

### p. 29

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

2. **rather than ...** 「～よりも」
3. **why he had tapped ...** 「なぜ彼がコツコツとたたいたか」
4. **looked the same** 「同じように見えた」
5. **seemed to have found** to 不定詞の完了形は文の述語動詞が表す時よりも前に起きたことを表す。「～を見つけたように思われた」

## 3

### p. 29

次の場面の音声聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

### p. 31

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 **I believe ... that** that 節の内容が believe の目的語に相当する。「私は～だと思う」
- 1 **a serious crime is being planned** be + 過去分詞 (planned) で受動態。be + 現在分詞 (being) で進行形。この2つが組み合わされて、「今、重大な犯罪が計画されている」
- 7 **everything that ...** that は関係代名詞。「～のことすべて」
- 8 **what has happened and what is about to happen** have + 過去分詞で現在完了。「これまでに起きたこと」 be about to は be going to よりも差し迫った未来を表し、「今まさに起ころうとしていること」

## Preparation for the next story!

p. 30

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 10 **He believed that a serious crime was being planned** Listening Script  
の中の “I believe ... that a serious crime is being planned” と同じ内容  
を表しているが、主節の動詞が過去形になったのに合わせて is も過  
去形になり、これを時制の一致という。「彼は重大な犯罪が計画され  
ていると思った」
- 11 **He told him to come** tell O to do で「O に～するように言う」

## Unit 5 Setting the Trap

Let's go on to today's story!



1

p. 32

- 1 **I must confess that I shall miss ...** that 以下の節が confess の目的語に相当する。動詞に意味を加える助動詞にも注目しよう。must「～しなければならない」 shall「～することになる」 動詞 miss は、何かができなくて残念な気持ちを表す。
- 2 **the first Saturday night in 27 years that ...** 「27年間で初めての土曜の夜」 何が初めてなのかということが、関係代名詞 that 以下で説明されている。
- 4 **find yourself playing** find oneself (to be) doing「自分自身が～しているのに気づく」 Merryweather 氏がクラブに行けなくなることを残念がっているので、今回の件に付き合えば、クラブで賭けるよりも大きな賭けができると Holmes は言っている。
- 8 **a criminal you have been seeking** 関係代名詞が省略されていて、関係詞節が criminal を修飾している。a criminal who(m) you have been seeking
- 12 **as cunning as his fingers** 形容詞の原級を用いた比較表現。as ... as「～と同じくらい…な」

### EXERCISE

p. 33

本文をよく読み、それぞれの人物になったつもりで要点を書き出しましょう。

Merryweather 氏に関すること → p. 32 本文 1～7 行。

Jones 警部に関すること → 本文 7～13 行。

## 2

### p. 34

- 1 **This vault cannot be reached from above.** be + 過去分詞で受動態。人を主語にすれば、We cannot reach this vault from above. (我々は上からはこの地下室に到達することができない) となる。
- 3 **Nor from below. cannot be reached from above** に対応して、「下からも～できない」
- 6 **Turning to Watson, Holmes said** 分詞構文。turning の意味上の主語は Holmes で、said の主語と同じなので省略されている。2つの動作の連続を表す。
- 8 **for they won't do anything** この for は理由を表す。won't = will not
- 10 **the rest of you are to conceal yourselves** ここでは be + to 不定詞が義務を表し、Holmes が他の人たちに命令している。
- 12 **shoot them down!** 動詞の原形で始まるのは命令文。
- 14 **Over the edge peeped a ... face.** 述語動詞 (V) は peeped、主語 (S) は a clean-cut, boyish face で、V + S の順に並んでいる。これを倒置という。
- 15 **with a hand on either side of the opening,** with 以下で付帯状況を表す。「手を開口部の両側にかけて」
- 16 **Reaching back in, he lifted ...** reaching の意味上の主語は he で、分詞構文。手を差し伸べる動作と引き上げる動作が連続している。

## EXERCISE

### p. 35

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

1. **It seemed impossible to ...** It は仮の主語で、to reach を指す。seemed impossible 「不可能に思われた」
2. **found that ...** that 以下のことに気づいた。
4. **told ... to attack** tell O to do で「O に～するように言う」
5. **less than ...** 「～より少ない、～未満の」

### 3

p. 35

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 37

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 3 **no use** 「無駄な、用をなさない」
- 4 **so I see** so は前文の内容 (You cannot escape.) を受けている。
- 7 **You seem to have thought of everything.** to 不定詞の完了形は文の述語動詞が表す時よりも前に起きたことを表す。seem 「～のように見える、思われる」
- 7 **compliment** 「敬意を表する、賛辞を述べる」

## Preparation for the next story!

p. 36

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 2 **had already come** had+ 過去分詞で、過去完了。過去のある時点よりも前に動作が完了していたことを表す。
- 8 **an hour and a quarter** 1 時間 + 1/4 時間 → 「1 時間 15 分」
- 9 **concealing themselves** 分詞構文。「身を隠しながら」
- 12 **the other** the first man と対応して、「もう一人は」
- 13 **he was to be arrested** be + 過去分詞で受動態。be + to 不定詞は運命を表す。「彼は捕まることになるだろうと」

## Unit 6 Holmes Explains the Plan

Let's go on to today's story!



1

p. 38

- 1 **it was obvious from the start that ...** it は形式主語で、that 以下の内容を代表している。「～であることは初めから明らかだった」
- 2 **to get Jabez Wilson out of his pawnshop** get O out of ... 「O を～の外に連れ出す」この to 不定詞は名詞用法（～すること）。
- 5 **they made certain that ...** make certain + that 節で、「確実に that 以下のようにする」
- 7 **what ... made you suspicious?** この make は「～を～にする」という意味。直訳すれば、「何があなたを疑わせたのか?」
- 12 **there was nothing of great value** of + 抽象名詞で形容詞の働きをする。of value = valuable
- 13 **to make such elaborate plans ...** この部分は nothing とつながっていて、nothing of great value ... to make such plans 「そのような計画を立てるほど大きな価値があるものは何もない」
- 14 **I decided it must be ...** I decided (that) it must be ... that 節は decide の目的語に相当する。「わたしは～と判断した」 must 「～にちがいない」
- 15 **I remembered Wilson's telling** remember doing 「～したことを覚えている、思い出す」 telling の意味上の主語は Wilson なので、「Wilson が～したことを思い出した」
- 19 **The only thing I could come up with ...** the only thing (that) I could come up with までが主部。「私が唯一思いついたことは」

### EXERCISE

p. 39

本文をよく読み、なぞ解きをまとめましょう。注目すべき箇所をヒントとしてあげておきます。

1. → the only possible purpose was ...
2. → the method probably occurred to Clay ...
3. → ... I figured he had a strong motive
4. → ... So I decided it must be something with the house.
5. → Then I remembered Wilson's telling us ...
6. → The only thing I could come up with was ...

## 2

p. 40

- 1 **make sure** 後ろに of something や that 節が来て、「確かめる」
- 2 **tapped my walking stick on ...** 「ステッキを～に軽く打ちつける、ステッキで～をたたく」
- 6 **It wasn't his face I looked at** It was not his face (that) I looked at. 強調構文で「私が見たのは彼の顔ではなかった」
- 12 **When I realized that ..., I knew that ....** that 節をまとまりとしてとらえよう。それぞれの that 節が、realized や knew の目的語に相当する。「(私が) ～ということに気づいたとき、私は～と知った」

## EXERCISE

p. 40

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

## 3

p. 41

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 43

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 **be sure that ... that** 以下のことを確信する。
- 4 **had to** 現在形は **have to** で、「～しなければならない」
- 5 **for it might be ...** この **for** は理由を表す。「～されるかもしれないので」
- 7 **a full day ... to escape** 「逃亡するための丸一日」
- 10 **reasoned it out** 「結論を導き出した、推理した」

## Reasoning of the case!

p. 42

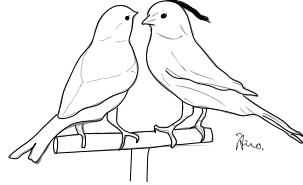
このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をまとめます。空欄に単語を入れ、Holmes の推理を確認しましょう。

- 2 **It was because he remembered that Wilson had told him that Spaulding had interest in photography and frequently disappeared into the cellar.** 節が何重にも重なっていて、それぞれの役割を理解することが大切。
- ・ It was because ... 「それはなぜかというのと～」
  - ・ he remembered that ... 「彼は～ということを思い出した」
  - ・ Wilson had told him that ... 「Wilson が彼に～と言った」
- 5 **as** 「～なので」
- 8 **no longer ...** 「もはや～ない」
- 12 **for** 「～なので」



## Unit 7 A Job with Strange Requirements

Let's go on to today's story!



1

p. 46

- 2 **100 pounds a year** a = per 「～につき」
- 3 **seem** 「～に思われる」
- 6 “‘**One child—one dear little boy of six,**’ Mr. Rucastle said with a laugh.” 引用文の中に引用符が使われていることに注目。全体としては Miss Hunter が Holmes たちに語っている内容であり、その中で Hunter と Rucastle のやりとりが再現されている。of six (years old)
- 8 **asked if ...** 「～かどうかたずねた」
- 9 **orders my wife might give** orders (which) my wife might give 関係詞節が orders を修飾している。助動詞 might の意味は、「～かもしれない」
- 13 **if we asked you to sit in a certain chair, would you be agreeable?** 仮定法過去。現在や未来についての仮定を表す。条件節の動詞が過去形に、帰結節の助動詞が過去形になる。
- 16 **would you cut your hair short?** Would you ...? で依頼を表す。仮定法の条件節が省略されていると考えると分かりやすい。「(もし私たちがあなたに髪を切るようお願いしたら) 髪を短く切ってもらえますか?」
- 18 **long and thick hair, of which I have always been quite proud.** カンマがついているので関係代名詞の非制限用法。「私はその髪を～」前置詞 of は proud につながる。have been は現在完了。「これまでずっと自慢に思ってきました」

### EXERCISE

p. 47

本文をよく読み、問われている箇所を探しましょう。(ガイド巻末に解答あり)

1. ask O to do 「人に～するよう頼む」
2. one of + 名詞の複数形で、「～のひとつ」
3. one of the whims (which) Mr. Rucastle mentioned

## 2

### p. 48

- 5 **was impressed with ...** 「～に感動して」
- 7 **increase ... to** この前置詞 to は限度を表している。「～まで給料を上げる」
- 7 **so as to pay you for ...** so as to do で目的を表す。「～するように」  
pay for ... 「～の埋め合わせをする」
- 8 **inconvenience our little fancies may cause you inconvenience (which) ... may cause you** 「～が引き起こすかもしれない迷惑」
- 9 **a shade of blue called ...** 過去分詞 called がその前の名詞句を修飾している。「～と呼ばれる青い色合い」
- 10 **would like you to wear** 「あなたに着てもらいたい」
- 11 **you need not buy one** この one は代名詞で、a dress (of that color) のこと。
- 11 **we have one here belonging to ...** belonging は現在分詞で、one (=a dress) を修飾している。

## EXERCISE

### p. 49

本文をよく読み、手紙の要点を書き出しましょう。

## 3

### p. 49

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

### p. 51

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。  
(ガイド巻末に解答あり)

- 2 **I would like your opinion of ...** 「～についてのあなたの意見を伺いたい」
- 2 **what ... could possibly mean** 「～が何を意味するだろうか」
- 5 **too good** 「良すぎる」
- 10 **By all means** 「もちろん、どんなことがあっても」
- 10 **If you should ... should** 「万が一」
- 10 **find yourself in danger** find は再帰代名詞とともに用いて、気づいてみたらある状態におかれているという意味。

## Preparation for the next story!

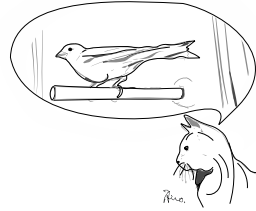
p. 50

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約(summary)とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 1 **was offered** be+ 過去分詞で受動態。
- 1 **a position as ...** 「～の職」
- 4 **orders Mrs. Rucastle give** orders (which) Mrs. Rucastle give
- 11 **so that ...** 「～するために」

## Unit 8 The Work Begins

Let's go on to today's story!



**1**

p. 52

- 3 **much younger than ...** much は比較級を強調。「～よりもずっと若い」
- 3 **take him for ...** take O for ... 「O を～とみなす、～だと思う」
- 4 **they have been married seven years** have + 過去分詞で現在完了。be married 「結婚している」 この7年間結婚した状態であることを表す。「結婚して7年になる」
- 4 **He had been a widower** had + 過去分詞で過去完了。今の妻である Mrs. Rucastle と結婚する前のことを表している。
- 5 **had gone to America** これも had + 過去分詞で過去完了。Mr. Rucastle から話を聞いた時点で、もうアメリカに行ってしまった。
- 10 **the saddest look** the saddest は sad の最上級だが、ここでは何かと比較しているのではなく、程度を強調した表現。「とても悲しげな表情」
- 16 **I've seen him drunk ...** see O+ 形容詞「O が～なのを見る」 have seen は現在完了。「この2週間で2度見ている」

### EXERCISE

p. 53

本文をよく読み、それぞれの人物に関する描写を書き出しましょう。年齢、見た目、性質などが Miss Hunter によって報告されています。

**2**

p. 54

- 2 **as I sat there puzzled** as は接続詞で「～しているとき」の意。puzzled は直前に being が省略された分詞構文。「困惑して」
- 4 **are pleased that ...** that 節の内容が pleased という感情の原因となっ

ている。「～でうれしい」

- 6 **that ... dress I spoke to you about** that dress (which) I spoke to you about 「あなたに話したあのドレス」
- 7 **put it on** put on 「着る」 put on は着る動作を表し、wear は身につけている状態を表す。
- 9 **a chair, which had been placed** カンマの後に関係代名詞があるので、非制限用法。先行詞 chair に説明を加えている。had + 過去分詞は過去完了で、motioned よりも前に椅子が置かれていたことを表す。
- 13 **the funniest stories I have ever heard** funny の最上級。「これまでに聞いた中でもっともおもしろい話」

## EXERCISE

p. 55

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1. **happy to see** 「～を見てうれしい」
- 2. **make** 「～を～にする」
- 3. **with** 以下で付帯状況を表す。
- 4. **too ... to (do)** 「…すぎて～できない」

**3**

p. 55

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 57

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 **took place** take place 「生じる、行われる」
- 3 **so my shadow wouldn't ...** so that S would not ... 「S が～しないよう

に」

- 8 **As the days went on** 「日がたつにつれて」
- 9 **so careful to turn my face away from the window that I started ... so ... that** ~「とても…なので～」 careful to do 「～するように気をつける」
- 10 **the wildest** 最上級で形容詞を強調。

## Preparation for the next story!

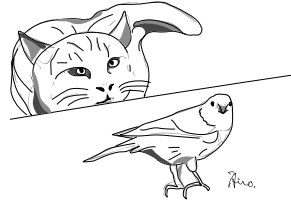
### p. 56

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。要約 (summary) とは、元の文章の重要なポイントのみを短くまとめたものです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 1 **the Copper Beeches: Mr. and Mrs. Rucastle, ...** : この記号はコロン (colon) と呼ばれ、具体的な情報が後に続く。
- 10 **made her read a book** この make は使役動詞で、make O + 動詞の原形。「彼女に本を読ませた」
- 11 **ordered her to stop reading** order O to do 「O に～するよう命じる」
- 11 **more and more** 「ますます」

## Unit 9 A Strange Observer

Let's go on to today's story!



1

p. 58

- 3 **all I saw** all (that) I saw 「私の見たすべて」
- 3 **a man standing ..., looking in my direction.** 現在分詞 standing は a man を修飾し、「立っている男」 looking の意味上の主語は a man で、「～しながら立っている」
- 6 **I am certain that she guessed I had a mirror ...** that 節が重なっている。  
・ I am certain that ... 「私は～を確信している」  
・ she guessed (that) I had a mirror ... 「私が鏡を持っていると彼女は推測した」
- 7 **, for ...** for は理由を表す。「というのは～」
- 7 **at once** 「すぐに」
- 9 **“‘A friend of yours, Miss Hunter?’ Mr. Rucastle asked me.”** 引用文中の引用符。内側の引用符は Miss Hunter と Mr. Rucastle のやりとりを、外側の引用符で Hunter がそれを Holmes たちに話していることを表している。
- 11 **motion for him to go away** motion は動詞の原形で、命令文。「彼に立ち去るよう指図してください」
- 12 **wouldn't it better to ...?** 「～したほうがよくないですか？」
- 16 **from that day on** 「その日から」

### EXERCISE

p. 59

質問を理解したうえで、本文中に答えを探し、選択肢に照らし合わせましょう。(ガイド巻末に解答あり)

1. **a chance to ...** 「～する機会」

2. **When ... , did she ...?** when が導く節はカンマまで続く。「～のとき」
3. **What would Holmes most likely say ...?** 「Holmes はおそらく何と言うのでしょうか」 書いてある内容から先の展開を推測する問題ですが、判断の根拠となるヒントが少ないようです。Holmes ならどうするだろうかと考えてみてください。ちなみに、原作と Heinle 版には Holmes の言ったことが書かれています。

## 2

### p. 60

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

### p. 63

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。  
(ガイド巻末に解答あり)

- 1 the very first evening that ... 「～した最初の夜」
- 5 **Look through here** 動詞の原形で始まるのは命令文。「ここからのぞいてみなさい」
- 7 **Don't be frightened** don't で始まるのは否定の命令文。一般動詞でも be 動詞でも否定形は同じく Don't で始める。
- 8 **lets him loose** 主語は Toller で、him は Mr. Rucastle の飼い犬 Cairo を指す。「犬を放す」
- 9 **warned me not to go out ...** warn O not to do 「O に～しないよう忠告する」
- 11 **Strange that your employer should** (It is) strange that ... should ...  
「～とは奇妙だ」
- 11 **grounds** 「敷地」

## 3

### p. 60-p. 61

- 7 **I kept my hair in ... after I had cut it off** had + 過去分詞で過去完了。



kept よりも前に cut が行われたことを表す。

- 9 **what few clothes** 「わずかばかりの服」
- 10 **I placed mine next to the one I had found in the drawer** mine は所有代名詞で、my curl of hair を指す。one は代名詞で、the one は、the curl of hair (which) I had found ... を指す。
- 12 **this puzzled me** this は前文の内容を指す。
- 13 **, since I really had no right** since は理由を表す。「というのも」

## EXERCISE

### p. 61

本文をよく読み、本文に合うように文を完成させましょう。主語に注目して、それに合う動詞を探すと答えが見つかります。

## Preparation for the next story!

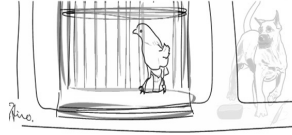
### p. 62

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 2 **Bringing it up to her face** 分詞構文で、意味上の主語は she。
- 4 **as she was told** 「命じられたとおりに」
- 6 **what had happened** 「起きていたこと、何が起こっていたか」
- 7 **a small shed where they kept ...** 「彼らが〜を飼っていた小さな小屋」

## Unit 10 Miss Hunter Looks Around

Let's go on to today's story!



**1**

p. 64

- 3 **I saw Mr. Rucastle coming out ...** see O doing 「O が～しているのを見る」
- 4 **hurried past me** この past は前置詞で、「急いで私のそばを通り過ぎていった」
- 6 **I'm sure that with your curiosity ..., you found the answer to this mystery.** that 節全体が I am sure の目的語に相当する。つまり、話者が確信している内容。that 節の中は、主語が you で found が述語動詞。with は手段を表す。「あなたの好奇心と～でもって、あなたはこのミステリーの答えを見つけた」
- 9 **I'm afraid not.** I am afraid ... 「残念ながらら～だ」 not は前文の you found the answer を受けて、I have not found the answer.
- 12 **took Edward for a walk** take O for a walk 「～を散歩に連れ出す」
- 15 **from time to time** 「時々」
- 19 **I realized that ...** that 節全体が realized の目的語に相当する。「私は～ということに気づいた」
- 20 **some secret which I was not supposed to know** 関係代名詞 which によって導かれる節が先行詞 secret を修飾している。

### EXERCISE

p. 65

質問を理解したうえで、本文中に答えを探し、答えを完成させましょう。どれも疑問詞を使った一般動詞の疑問文です。

- この疑問文の主語は the door to the deserted wing で、述語動詞が face。「どこに面していたか？」
- How did S look? 「S はどのように見えたか? どのような様子だった

か？」

3. find O (to be) C 「O を C と思う」 C の部分が How という語で問われている。
4. How did S explain O? 「S は O をどのように説明したか？」
5. Why did S realize O? 「S はなぜ O ということに気づいたか？」

## 2

p. 66

- 1 both Toller and his wife both A and B 「A と B の両方」
- 4 I saw that the key had been left be + 過去分詞で受動態。had + 過去分詞で過去完了。つまり、鍵が置かれたのは saw より前のこと。
- 7 a hallway facing ... 現在分詞 facing 以降が hallway を修飾している。
- 8 The middle door was closed ... barred ..., padlocked be + 過去分詞で受動態。主語 the middle door に対して、was + 3 つの過去分詞がある。
- 13 As I stood ..., looking at ..., as 「～していると」 looking は分詞構文で、「～を見ながら」

## EXERCISE

p. 67

読み取った景色を目で確かめましょう。ガイド巻末に答えは掲載されますが、まずはご自分で挑戦してみてください。

## 3

p. 67

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 69

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 1 “ ‘... 引用文の中に引用符が使われている。外側が double quotation

mark で、内側に single quotation mark が使われている。全体としては Miss Hunter が Holmes たちに話している内容であり、その中で Hunter と Mr. Rucastle のやりとりが再現されている。

- 5 **frightened me so badly that I ran out.** so ... that ~「とても…なので〜」
- 6 **It is to keep out ...** It は前文の内容を指し、to 不定詞はその目的を表す。
- 7 **now that ...** 「〜であるので」
- 11 **so terrified ... that I don't know what I did.** so ... that ~「とても…なので〜」 what I did「私のしたこと、私が何をしたか」
- 12 **I must have been rushed by ...** be + 過去分詞で受動態。「追い立てられる」 must have + 過去分詞で過去のことに関する推量を表す。「〜だったに違いない」
- 12 **managed to run down ...** manage to do「なんとか〜する」

## Preparation for the next story!

p. 68

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 9 **so frightened that ...** 「とても怖かったので〜した」
- 9 **ran into Mr. Rucastle** run into ... 「〜に出くわす」
- 10 **told her never to go into ...** tell O never to do「O に決して〜をするなと言う」

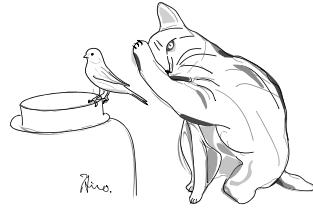
## Unit 11 Mr. Holmes Has an Idea

Let's go on to today's story!

1

p. 70

- 1 Since ..., 「～なので」
- 1 have to worry about only ... have to 「～しなければならない」 only があるので、「～だけを心配すればよい」
- 2 Can you ...? 依頼を表す。「～してもらえますか?」
- 7 it is obvious that ... it は形式主語で、that 節を代表する。「～ということ は明らかだ」
- 8 to impersonate ... to 不定詞の副詞的用法で、目的を表す。
- 11 ... Alice, who was supposed to be ... カンマの後に who があるのは関係 代名詞の非制限用法で、先行詞 Alice に説明を加えている。「彼女は ～にいると思われていましたが」
- 15 by having Miss Hunter cut hers off 前置詞 by は手段を表す。have は使役動詞で、have O + 動詞の原形で「O に～させる」 hers = her hair
- 16 the man Miss Hunter saw ... the man who(m) Miss Hunter saw ...
- 18 was designed to show ... be + 過去分詞で受動態。「～を見せるよう に計画された」
- 18 to show the gentleman that ... show O that 節「O に～ということを 見せる」



### EXERCISE

p. 71

本文をもう一度よく読み、要点をメモしましょう。

- ・ Miss Hunter が連れてこられた理由：p. 70 本文 7 ～ 12 行目
- ・ Miss Hunter がこの仕事に選ばれた理由：12 ～ 15 行目
- ・ この演出の理由：16 ～ 19 行目

## 2

### p. 72

- 2 **Did you do it?** itが指すのは p. 70, 2～3 行目の依頼内容。
- 6 **put an end to** 「～を終わらせる」
- 10 **the barred door** 過去分詞 **barred** が形容詞的に名詞 **door** を修飾している。「かんぬきを差されたドア」
- 13 **whoever is inside** 「中にいるのが誰であれその人が」
- 13 **must have heard** **must have** + 過去分詞で「～したに違いない」
- 14 **The silence from the inside the room** ここまでが主部で、**brought** が述語動詞、**a frown** が目的語。

## EXERCISE

### p. 73

述語動詞以下の内容をよく読み、主語を書き入れましょう。誰が何をしたのか、あるいは何をされたのか、しっかり理解できる問題です。ガイド巻末に答えを載せますが、まずはご自分で整理してください。

## 3

### p. 73

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

### p. 75

スクリプトを見ながら音声を聴き、空欄に単語を書き入れましょう。(ガイド巻末に解答あり)

- 3 **was gone!** 「いなくなっていた！」 完了形は **had gone** だが、**come** や **go** など移動を表す自動詞の場合、**be** + 過去分詞で完了を表すことがある。
- 4 **I fear that ...** 「～ではないかと思う、～ではないかと配だ」
- 7 **skylight** 「天窗」

## Preparation for the next story!

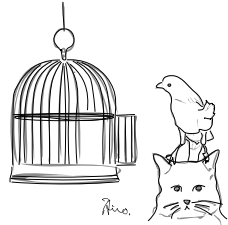
p. 74

このユニットで読んだ**1****2****3**の内容をいったんまとめ、先へ読み進める準備をするセクションです。空欄に単語を入れ、要約文を完成させましょう。

- 1    **promised Miss Hunter to visit**   promise O to do 「O に～すると約束する」
- 5    **could be designed to ...**    could は可能性を表す。
- 7    **at seven**   「7時に」

## Unit 12 Mr. Rucastle's Terrible Fate

Let's go on to today's story!



1

p. 76

- 1 a heavy stick in his hand. 「手に重いステッキを持って」
- 7 “I’d better ask you that,” he yelled. had better (do) 「～したほうがよい」 that は前出の質問、Where is she? を指す。
- 8 you shall not escape! shall not には話者の意思が反映されて、「逃げられないぞ!」
- 13 followed by ... 「その後に～が続いた」
- 17 he hasn’t been fed in two days. he = the dog be + 過去分詞で受動態、さらに have + 過去分詞で完了形。「2 日間えさを与えられていない」
- 19 its jaws buried in ... 独立分詞構文。「あごが～にうずもれた状態で」つまり、犬が Rucastle 氏の喉に歯を深く食い込ませた状態でそこにいた。

### EXERCISE

p. 77

質問を理解し、答えを完成させましょう。どれも疑問詞を使った疑問文です。

3. After ..., where did Mr. Rucastle go? 「～の後で、Rucastle 氏はどこへ行ったか？」
4. 主語は、Holmes, Watson, Miss Hunter の 3 人。
5. They saw Mr. Rucastle (doing) 「彼らは Rucastle 氏が～しているのを見た」という意味にするには、最初のかっこ内に現在分詞 (-ing) を入れる。



## 2

p. 78

- 1 **From the time ...** from the time (when) ... 「～した時から」
- 8 **she was so innocent that she ...** 「彼女はとてもお人好しなので～」
- 13 **get Miss Alice to sign** get は使役動詞。get O to do 「O に～させる」
- 13 **a paper letting him use the money** 現在分詞 letting が名詞 paper を修飾して、「そのお金を使うことを彼に許す書類」
- 14 **whether she married or not** 「彼女が結婚してもしなくても」
- 16 **nearly killed her.** 「彼女をもう少しで殺してしまうところだった」
- 18 **her illness left her pale and thin.** leave O C 「O を C の状態にしておく」

## EXERCISE

p. 79

True か False かを判断します。本文をよく読み、その内容がどこにあるか確認しましょう。False の場合は、本文の内容と合わない箇所を直してみましょう。(ガイド巻末に解答あり)

2. **because of ...** 「～の理由で、～のために」 **because of** で前置詞として使われ、次に名詞が来る。
5. **for a while** 「しばらくの間」

## 3

p. 79

次の場面の音声を聴きながら質問に答える問題です。聴き取りたいポイントを意識して臨みましょう。

## Listening Script

p. 81

- 1 **figure out ...** 「～が分かる」
- 2 **no longer ...** 「もう～ない」
- 3 **cared to see** care to は「～したいと思う」という意味で、時制の一致のルールにより過去形になっている。no longer と合わせて、「もう会いたいと思わない」

- 4 **persisted in ...** 「あくまで～し続けた」
- 7 **persuade Mr. Fowler that ...** persuade O + that 節「O に that 以下のことを説得する」
- 9 **managed to** manage to do は、困難なことをなし遂げるという意味。
- 10 **persuade you ... to help him.** persuade O to do 「O に～するよう説得する」
- 13 **made certain that ...** 「確実に～となるようにした」

## Conclusion of the Case!

p. 80

ユニットで読んだ**1****2****3**の内容を要約する作業もいよいよここまで！  
空欄に単語を入れ、事件の真相をまとめましょう。

- 3 **as the dog bit him on the throat** bite O on + 体の部分で、誰の、どこにかみつくかを表す。
- 6 **what had happened to Alice** 「Alice に何が起きていたか、Alice に起きていたこと」
- 13 **so he could save ...** so (that) he could ... 「～できるように」

## *A sequel to the case*

p. 80

ぶな屋敷の事件が解決した後の後日談です。

- 1 **barely managed to survive** 「かろうじてなんとか生き延びた」
- 4 **a fine position as ...** 「立派な～の職」
- 5 **All is well** 「すべてうまくいっている」 Watson は All is well that ends well と言おうとしているのか。 *All's Well That Ends Well* は William Shakespeare の戯曲のタイトル。「終わりよければすべてよし」
- 6 **Nothing will be well until ...** 「～まではよいことがないだろう」

## 参考文献

### 使用教科書

上村淳子, 山科美和子 編著. *Mystery Tour with Sherlock Holmes* (『シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅』). センゲージラーニング株式会社, 2009 年.

### 参考文献

Doyle, Arthur Conan. *The Adventures of Sherlock Holmes*. BBC Books, 2011.  
Vogel, Malvina G, adapt. *The Adventures of Sherlock Holmes*. By Arthur Conan Doyle. Illus. Brendan Lynch. *The Heinle Reading Library, Illustrated Classics Collection*, Baronet Books, 2003.

### 一般辞書

*Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 9th ed. Oxford UP, 2015.  
*Longman Dictionary of Contemporary English*. 6th ed. Pearson, 2014.  
*Oxford Thesaurus of English*. 2nd ed. Oxford UP, 2004.  
『ランダムハウス英和大辞典』第2版. 小学館, 1994 年.  
『リーダーズ英和辞典』第3版. 研究社, 2016 年.  
『リーダーズ・プラス』研究社, 2016 年.  
『新英和大辞典』第6版. 研究社, 2013 年.

### 文法書

Murphy, Raymond. *Basic Grammar in Use*. 3rd ed. Cambridge UP, 2011.  
Murphy, Raymond. *Grammar in Use, Intermediate*. 3rd ed. Cambridge UP, 2014.  
荒木一雄, 安井稔 編 『現代英文法辞典』三省堂, 1992 年.  
安井稔 編 『コンサイス英文法辞典』三省堂, 1996 年.  
綿貫陽 他著 『ロイヤル英文法』改訂新版. 旺文社, 2006 年.

## 解 答 集

### Introduction (p. 6)

detective, London, mysteries,  
criminals, telephones, televisions,  
19th, observation, deduction,  
Watson

### Unit 1

#### Exercise (p. 11)

T, F, F, T, T

#### Listening Script (p. 13)

Never, a member, Some slight work,  
appealing, the newspaper, the ad

### Unit 2

#### Exercise (p. 15)

R, R, A, A

#### Exercise (p. 17)

T, F, T, F, T

#### Listening Script (p. 19)

look after, from ten to two every  
day, set foot outside, Four, copy

### Unit 3

#### Exercise (p. 23)

William Morris, lawyer, 17 King  
Edward Street, manufacturer, no one

#### Listening Script (p. 25)

A month, bright, cheap, Small,  
had a scar, pierced

### Unit 4

#### Exercise (p. 29)

T, F, F, F, T

#### Listening Script (p. 31)

serious crime, Saturday, ten, bring,  
confused

### Unit 5

#### Exercise (p. 35)

T, T, T, T, F

#### Listening Script (p. 37)

Mr. Wilson's house, Vincent  
Spaulding, locked, handcuffs

### Unit 6

#### Exercise (p. 40)

T, T, F, T, T

#### Listening Script (p. 43)

the tunnel was finished, discovered,  
removed, escape, opened

## **Unit 7**

### **Exercise (p. 47)**

B, A, C, B

### **Listening Script (p. 51)**

accept the position, too good,  
strange and mysterious, danger,  
telegram

## **Unit 8**

### **Exercise (p. 55)**

T, F, F, F, T

### **Listening Script (p. 57)**

Two days later, book, read to him,  
ten minutes, suddenly, face away,  
window

## **Unit 9**

### **Exercise (p. 59)**

A, B, B

### **Listening Script (p. 63)**

chain, a large animal, once a day,  
loose, go, at night

## **Unit 10**

### **Exercise (p. 67)**

1. hallway, three, row 2. open  
3. closed, barred 4. iron  
5. padlocked 6. glimmer, door

### **Listening Script (p. 69)**

calm, on guard, go into, throw you,  
you a telegram

## **Unit 11**

### **Exercise (p. 73)**

1. Miss Hunter 2. Mrs. Toller  
3. Mr. Toller 4. Miss Hunter  
5. Holmes 6. Watson  
7. Holmes, Watson

### **Listening Script (p. 75)**

empty, skylight, gone, ladder, ladder,  
footsteps

## **Unit 12**

### **Exercise (p. 79)**

F, T, T, T, T, F

### **Listening Script (p. 81)**

deserted wing of, coming around,  
see, persuade you with money,  
ladder

ｽﾀﾃﾞｨｱﾞﾂ 英語 2

(Mystery Tour with Sherlock Holmes「シャーロック・ホームズを巡るミステリーの旅」)

S0482-3-3

2025/3/1



ｽﾀﾃﾞｨｱﾞﾂ ﾏｲﾄﾞ (学習指導書)

〈英語 2〉 *Mystery Tour with Sherlock Holmes*

(「シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅」)

2022 年 3 月 1 日 第 1 版第 1 刷発行

2025 年 3 月 1 日 第 1 版第 3 刷発行

発行所 法政大学通信教育部

102-8445 東京都千代田区富士見2-17-1

電話 03 (3264) 6557

印刷所 株式会社 エイチ・ユー

102-0073 東京都千代田区九段北3-3-5

法政大学九段北校舎8F

電話 03 (3264) 9569